令和5年度
学校だより
NO. 6
R5. 9. 28

中道南小だより
南っ子
かしこく　なかよく　げんきよく

甲府市立中道南小学校
（児童数６９名）
文責：校長　大森　竹仁

全国学力・学習状況調査について

４月１８日（火）に6年生を対象として、本年度の全国学力・学習状況調査が実施されました。内容は、教科に関する調査（国語・算数）と、学習環境や生活環境に関する調査（質問紙）の2種類が行われました。この調査の目的は3つあります。

①児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題の検証と改善を図る。
②学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
③教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

次に、本校の学力・学習状況調査の結果概要と今後の取り組みについてお知らせします。

（1）教科に関する調査結果（国語・算数）

◎本校の結果（全国や山梨県との平均正答率比較）
＊文部科学省では、平均との差±5%を微差とし、「±5%の範囲内は、ほぼ同等とする」としています。これを基に、＋5%以上を「上回っている」、－5%以下を「下回っている」と表記します。
【国語】 全国・県平均を下回っています。
【算数】 全国・県平均を下回っています。

（2）各教科における考察

今回出題された中から、本校の平均正答率が30%以下の項目を抽出しました。

【国語】
①課題となる項目
ア　原因と結果など、情報と情報との関係について理解している。
イ　図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
ウ　目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
②今後の取り組み
ア　情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにする。また、ICT 機器を活用し、情報を整理しやすいようにする。
イ　伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いると良いかを児童が考えられるようにする。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か等の観点で見直していくようにする。
ウ　相手が自分に伝えたいことや自分が求めている情報などを、明確にして聞くことができるようにする。話をする際には、自分の知りたいことについて話してもらえたか確認して、話してもらったことが正しいか確かめるようにする。

【算数】
①課題となる項目
ア　伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。
イ　正三角形の意味や性質について理解している。
ウ　高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。
エ　示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記

述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する。
オ （2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考える。
カ 百分率で表された割合について理解している。
②今後の取り組み
ア 答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について表などを用いて、変化の規則性を基に説明できるようにする。
イ テープを折っての角の大きさを20° 等にして切ってできた直角三角形を切り開くと、頂角が何度になるか考えることができるようにする。その上で、頂角の大きさの2倍になることに気付かせる。
ウ 面積が等しく、形が異なる三角形の面積について、実際に計算で面積を求めることで、「底辺と高さがそれぞれ等しいとき面積は等しくなる」ことを理解できるようにする。
エ 3種類のファイルごとに23人分の長さを求める式を考えたこと、3種類のファイルの長さを合計して一人分のファイルの長さを求める式を考えたことなど、どのように式を用いたのかを説明できるようにする。
オ 除法の筆算の手順を具体物や図、式に表す活動をする。その際、除法の筆算が、被除数の66を60と6に分解して計算するという考え方に基づいていることを理解できるようにする。
カ 百分率で表された割合から、基準量とそれに対する比較量を捉える活動をする。その際、数直線を用いて、100人を基準量としたとき、それに対する比較量は30人と捉えることができるようにする。

（3）質問紙調査の結果から（県・全国と比較してよかったもの）

【基本的生活習慣に関わること】
〇朝食を毎朝食べている。 〇毎朝、同じくらいの時刻に起きている。
⇒朝の生活習慣が身についている。

【自分に関わること】
〇人が困っているときは、進んで助けている。 〇いじめは、どんな理由があってもいけないと思う。 〇将来の夢や目標を持っている。 〇困りごとや不安がある時に、学校にいる大人にいつでも相談できる。 〇人の役に立つ人間になりたいと思う。 〇自分と違う意見について考えるのは楽しい。
⇒周囲の存在や個人の考えを受け入れ、違う立場に対して排除や否定をしない。
集団の生活の中で、自分のできることをしようとする気持ちがある。

【学習に関わること】
〇先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。 〇先生は、授業や間違えたところを分かるまで教えてくれている。 〇学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている。（インターネットを通じて教わっている場合も含む） 〇読書の時間が1日1時間以上の児童が多い。 〇読書は好き。
⇒学校生活の中での指導を肯定的にとらえ、満足している。

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等】
〇国語の勉強は大切だと思う。 〇国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
〇算数の勉強は大切だと思う。 〇英語の勉強は大切だと思う。 〇これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった。
⇒教科学習に対する大切さや意義について意識をしている。

（4）全体としての取り組み
〇朝の読書活動の充実化を図る。新聞の記事やコラムなどを読み、まとめる活動を行う。
〇問題文を読み、分かっていること、求められていることを書きだす活動に取り組む。
〇算数科の文章題においては、問題文のイメージを絵や図や数直線にしてみることで、解法の糸口をつかめるようにする。
〇自分たちの生活の特徴や良さを再認識するために、地域のイベント紹介や参加の声かけを行っていく。
〇結果の良かった設問では、「どちらかといえば」を含めた肯定である場合が多い特徴があり、強い肯定は少なかった。教師は、児童の素地や良い面を積極的に認めたり、肯定する中で自信をもたせたり、自己有用感を高めていくことが必要である。